◆実践研究報告◆5

山梨県甲州市の教育実践

小椋　規雄（山梨県甲州市教育委員会指導主事）

1　甲州市「確かな学力育成」プロジェクト

2011年10月11日，甲州市教育委員会は市内小・中学校の児童生徒に確かな学力の定着や向上を図るために，「甲州市『確かな学力』育成プロジェクト」を発足しました。これは，現甲州市の保坂一仁教育長が，塩山中学校長時代にQ-Uを活用して集団づくりの基礎を創り上げた経験をもとに，その取組を市内全体に広げようと発案したところから始まりました。２年を１サイクルとしたプロジェクトも，現在第５次の１年目を迎え，今次は「浸透と定着」をテーマに掲げています。これまでの取組を継続させることで，新しいメンバーの中へも浸透し，定着へ向けて組織的に取り組むことによって，子どもたちの豊かな学びの保障や親和的な学習集団づくりを保障できると考えております。

本プロジェクトの基本的な考え方は，学級集団を「支え合い，学び合い，教育力のある，質の高い集団」に育成することを基盤とし，授業づくりや授業改善，保護者・地域と連携した取組を進めているということです。これは，「Q-Uを活用しての集団づくり」を提唱されている，河村茂雄先生（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）の考え方に依拠するものであり，河村先生にはプロジェクト委員会発足当時からきめ細かくご指導，ご支援をいただいております。

これからの「知識基盤社会」を担っていく甲州市の小・中学校の児童生徒に，基礎的・基本的な知識および技能を確実に習得させ，それらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育成するとともに，主体的に学習に取り組む態度を養い，本市児童生徒の確かな学力の向上を図ることを目的にしております。

上記の考え方に沿い，委員会の中には，「学級づくり・集団づくり」部会，「授業づくり・授業改善」部会，「保護者・地域住民との連携」部会を設置し，知・徳・体のバランスの取れた児童生徒の育成に留意した，具体的な取組を行ってきました。取組の一例をあげると，

◆「学級づくり・集団づくり」部会では，

(1)　Q-U調査を活用した集団づくり（検査は年２回）

(2)　K13法による分析の導入

(3)　アセスメントをもとにしたアタックシートの作成

(4)　「甲州市子ども十の誓い」へ向けた取組

(5)　集団づくりに関わる教育講演会の実施（年２回）

◆「授業づくり・授業改善」部会では，

(1)　全国学力・学習状況調査や県学力把握調査の結果の分析と改善プランの提案

(2)　「甲州市ティーチャーズノート」の作成と改訂

(3)　統一取組の提案・発信

(4)　授業づくりに関わる教育講演会の実施（年２回）

◆「保護者・地域住民との連携」部会では，

(1)　甲州市版「家庭学習の手引き」の改訂と活用

(2)　「甲州市親のあり方十か条」へ向けた取組

(3)　アウトメディアをはじめ子どもたちの生活環境向上に向けた取組

(4)　地域連携に関わる教育講演会を市のPTA連合会との合同で実施（年１回）

など，それぞれの部会で時代とニーズに合ったさまざまな取組を行っています。

2　長尾雅裕先生との出会い

プロジェクトを立ち上げるにあたり，甲州市では保坂教育長を中心に，指導主事経験者や市内の小学校長，ガイダンスカウンセリングを学んだ教員などで事務局を結成しました。はじめに，Hyper-QUの分析を通して，より効果的な取組を模索するため，K13法を利用して児童生徒の学習状況を的確に把握することを考えました。そのなかで，評価や支援につなげるためのPDCAサイクルによる授業づくりのプロセスなどについて，河村先生との打ち合わせを行いました。平成24年から，何度も早稲田大学に足を運ぶなかで，現在甲州市のスクールカウンセラーとして活躍される，長尾雅裕先生との出会いがありました。

長尾先生は千葉県で小学校教員をスタートさせ，その後出身地である鹿児島で永年教員生活を続けられました。退職されてから奥様のご実家がある山梨県甲州市で，第二の人生をスタートさせました。教員としての豊富な経験と，特別支援教育担当も経験された実績から，教育カウンセリングの理論は高く評価されていました。

当時，児童生徒だけでなく，保護者や教職員に対してアドバイスをしていただける，ガイダンスカウンセラーの力量を備えた人材を求めていた甲州市にとって，長尾先生は，まさに救世主のような存在でありました。それ以来，現在に至るまで長尾先生は文部科学省のスクールカウンセラー活用事業とは別に，市独自で依頼し甲州市専属のガイダンスカウンセラーとしてご活躍されています。

３　ガイダンスカウンセラーとして

長尾先生は，現在市内18校の小中学校すべてを順番に回り，授業参観や面談を通して教職員に寄り添ったカウンセリングを行っています。１回の訪問は約４時間。その間できるだけ多くの学級の授業を観察され，適切なアドバイスをいただいたり，教員との面談を通して生徒指導や問題事例発生時の対応について指導していただいています。時には効果的なSGEやSSTの具体的な方法を示していただくこともあります。また，いじめや不登校など，家庭環境にまでふれながら，対策について一緒に検討していただくこともあります。いわゆる育てるカウンセリング，幅の広い教育相談役として，多くの学校で活躍されています。

訪問の様子については，月に１回，教育長や市の指導主事，また教育事務所の指導主事と情報共有し，成果を見出したり，課題点を指摘したりしていただいております。常に学校現場と行政との両方に寄り添い，最新の動向を踏まえながら，ガイダンスカウンセラーの力量を発揮されています。

４　プロジェクトの推進にあたって

先にも述べたように，プロジェクトの基本的な考え方は「支え合い，学び合い，教育力のある，質の高い集団」を育成することにあります。生徒指導はカウンセラーが行うという諸外国とは違い，日本は学習指導と生徒指導とを授業を通して行っているのが一般的です。しかも日本は，世界的にも高い学力を長い間維持し続け，同時に家庭環境や友人関係にも配慮しながら親和的な学級集団を築くこと，進路指導やいじめ・不登校等，さまざまな問題の解決へ向けて，多くの先生方が努力しています。教育力のある質の高い集団を形成するには，やはり学級集団の状態を良好にしていく必要があります。そこで，プロジェクト発足当時からHyperQ-Uを年２回実施し，K13法による分析を行い，アセスメントをもとに検討した取組を継続して行ってきました。

その推進役として長尾先生は大きな存在であります。毎年年度初めには，各校の管理職や研究主任を集めて学習会を行います。そこでの講師をお願いし，認め合い高め合える集団づくりに向けての考え方を教えていただいたり，K13法の進め方を具体的な例をあげてグループワークをしていただいたりしています。学級の状態の原因を，担任や個人に求めるのではなく，その児童生徒にかかわるすべての教職員で取組を行っていくことの大切さや，環境づくりのポイントなどをていねいに教えていただいています。また，各校の校内研修の際には，どんな分野領域の研究においても，根底には親和的な学級集団作りが大切であることも教えていただきました。

そこで学んだ研究主任たちは，各学校に戻りK13法の進め方を還流するなかで，簡易版ではありますが定着させています。学校規模に合わせて全職員で取り組んだり，低中高学年ごとのブロックや学年単位で行ったりしながら，担任だけでなくすべての職員でアセスメントをもとにした取組を真剣に議論し，継続した活動へと浸透させていきます。

そうすることで多くの職員で，子どもたちの成長を見守り，育てていくことにつながっていると感じています。それは，学習面だけでなくいじめの無いクラスづくりや不登校を減少させることなど，認め合い支え合う学級集団づくりの一助となっていることは間違いありません。

５　学ぶ校長会

甲州市では，月１回の定例校長会をただの情報伝達の場としてではなく，学校経営に役立てる視点をもち，多くの意見を出し合いながら，市内の子どもたちを全校で育てていくという考えのもと，「学ぶ校長会」を合言葉に行っています。

プロジェクトについても，３部会それぞれの部会長をしている校長より，毎回部会研究の進捗状況や各校での取組などを提案し，実践に結びつけられるような場を設けています。

その中で長尾先生は，ガイダンスカウンセラーの立場で毎回参加していただいています。教育長が示す教育方針を具現化するために，学校長に対するアドバイスを行うためです。時には，いじめや不登校を減らすための方策を，またSGEの効果的な活用の仕方や教職員のメンタルヘルスについてと，幅広い内容でお話をいただいています。何事も問題が起こってから対応するのではなく，予防的・開発的な指導体制について多くの具体例を提示していただき，学校経営の基盤づくりを担っていただいております。

６　更なる浸透と定着へ向けて

プロジェクト開始から10年，ガイダンスカウンセラーとの連携からも７年が経過しました。その間，大きな成果を実感することができました。

・HyperQ-Uにおいて，ほとんどのクラスで全国比を超える学級満足度となり，親和的な集団が築かれるようになりました。また，支援が必要な児童生徒に対して，アセスメントをもとにした取組を全職員で行える組織が作られているのも大きな成果です。

・児童生徒のメディア接触時間が減り，家庭学習時間が増加するなど，生活習慣や学習習慣の確立につながりました。
・「全国学力・学習状況調査」の結果では，中学校においてすべての領域で全国平均を大きく上回り，全国の上位層とも肩を並べるほどになりました。小学校においても全国平均とほぼ同等の力を身につけ，着実な向上が見られました。
・各校の校内研修においても，集団づくりと授業づくりを両輪に計画が立てられ，授業や板書の構造化など，市内で統一取組が浸透してきています。

これら多くの成果は，子どもたちの生活習慣をしっかり確立し，学習指導と生徒指導との有機的な結びつきを意識してきた結果です。これからもさらなる浸透と定着へ向けて，継続した取組を行っていきたいと考えています。「チーム甲州市」は，児童生徒の健やかな成長のため，教職員，保護者・地域，そしてガイダンスカウンセラーをはじめとする，陰で支える方々みんなで手をつないでいることが一番の強みだと実感しています。